

■児童・生徒の学力の状況

○学習に意欲的に取り組むことはできる。しかし、互いの意見を交流したり、考えを深めたりすることに関しては意欲的とは言えない。

○「全国学力調査」では、記述式の問題を解く力が付いていないことが分かる。またここ数年間の学びのエリア打ち合わせにおいては、言語に関する力が課題とされている。エリア共通めあてを「言語の力を上げてできることを増やす」とし、全ての教科等において指導にあたることが大切である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○学習規律（板橋区授業スタンダード）について共通理解をしているが、徹底が不十分な面も見られる。

○「読み解く力」の育成を意識した授業を計画・実施しているが、十分でない。

○電子黒板やタブレット等ＩＣＴ機器の活用や映像教材の導入を積極的に図りながら指導方法や学習内容を工夫し、児童の興味関心、意欲を継続させていく必要がある。

○発達段階に応じたノート指導について共通理解を図るようにする。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダード」を徹底し、ＩＴＯの授業形態を全ての教室で実現させ、学力の向上を図る。

○学習指導要領の趣旨を踏まえ基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る。

○教育活動全般を通じ、「読み解く力」の指導に重点を置き、言語能力、情報活用能力、問題解決能力など全ての学習の基盤となる力を育む。また、毎時間の授業の振り返りの徹底を図る。

○適切な言語環境及び言語活動の充実や、ＧＩＧＡスクール構想の下、電子黒板、タブレット等ＩＣＴの活用を図る。

○児童が学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びや、児童同士の共同、教職員や地域との相互の関わり等を通じた対話的な学び、知識をを相互に関連付けてより深く理解し、問題を見出し、解決策を考える等の深い学びの実現を目指す。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○課題設定（めあての掲示・明示）→情報収集→分析・考察（考える）→課題解決（振り返り）→新たな課題の設定、という学習の流れを定着させる。	○読み解く力の育成を計画的に実施するよう、週案に「基礎的読解力」の6項目の記載をし、実践する。	○各教科で培った学びを用いて、計画的に実施する。課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の学習過程を繰り返すことで、探究的に学ぶ力を育てる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの4校で連携をとり、9年間を見通した学びを推進する。 ○学校や地域のあゆみを生活科・社会科・総合的な学習の時間等で学び、「ふるさと高五、ふるさと高島平」の郷土愛を育む。 ○緑のカーテン・ハーブガーデン作りを中心に、環境に対する見方や考え方を育成する。	○中・高学年実施している教科担任制や、各学年、各教科担当がそれぞれの視点でカリキュラムを見直すことで、学校の教育活動を教科等横断的に進める。 ○学習の内容によっては、世話人会やICS委員会等、人材の活用をする。 ○成果を分析して改善を図ることで、教育の質を高め、子どもたちに必要な資質・能力を育む。	○昨年度までの校内研で培ってきた一人一台端末を活用した授業力の向上の一層の充実を図る。 ○電子黒板・デジタル教材・映像教材などを活用して、学習内容の理解や児童主体の学習形態の促進を図る。